

1 「青天の霹靂」の安定生産と食味のレベルアップ

【概要】

東青地域「青天の霹靂」生産指導プロジェクトチームが生産者や関係機関と情報共有し、各農家が生産目標を達成できるように個別指導を通して、生産者の生産意欲向上と安定生産を目指した。

【背景・課題】

全作付者の出荷データを分析する中で、生産目標を下回る生産者が固定化してきていることが分かった。そこで、作付者全員に栽培ポイントを示した「生産者カルテ」の配布と、生産目標を下回った生産者への個別指導により、各ほ場ごとの特徴を吟味した栽培方法の改善、気象変動に対応した栽培管理ができるように指導する必要があることがあった。

【普及指導活動の内容】

- 東青地域「青天の霹靂」生産指導プロジェクトチームを通して、各関係機関と連携を強化するための連絡会議を開催し、今年度行う活動内容を決定し意識統一を図った。
- チーム員の追肥指導に当たっての技術統一と、今年の管内の生育状況の情報共有のための現地検討会を開催した。検討会終了後、チーム員で各生産者に対して、幼穂形成期以降の栽培管理について指導を行った。
- 育苗期、追肥時期、稲刈時期に講習会を開催し、各ほ場にに応じた栽培管理について指導を行った。

【成果】

- 玄米タンパク質含有率（6.4%以下）について全員が出荷基準を達成した。
- 生産目標のうち玄米タンパク質含有率（6.0%以下）の割合は74.1%となり令和2年度の20.9%から大幅に改善した。

【対象名】

- 青森農協「青天の霹靂」生産者部会（45名）
- 青森県米穀集荷協同組合「青天の霹靂」作付生産者部会（2名）
- (株)KAWACHO RICE（8名）



東青地域「青天の霹靂」プロジェクトチームの現地検討会

2 トマト指定産地の生産力向上

～省力的な誘引方法の導入支援と新規作付者の育成支援～

【概要】

省力・低コスト化に有効な2本仕立てUターン誘引栽培の導入支援を行った。また、新規作付者が増加しているミニトマト部会に対しては、個別成績表を基に個々の課題解決を支援した。

【背景・課題】

- 管内のトマトは、高齢化や労働力不足等により栽培面積が減少している。一方ミニトマトは一戸当たりの栽培面積が増加傾向にあり、どちらも省力・低コスト化が課題となっている。
- ミニトマトは新規作付者が増加しており、生産者間の収量・品質のバラツキが見られている。

【普及指導活動の内容】

- 2本仕立てUターン誘引栽培の実践農業者は場での栽培講習会や冬期講習会等で誘引方法や省力・低コストにつながることを周知した。
- トマト「桃太郎ワンダー」の指導情報や栽培講習会等で天候に対応した栽培管理技術を指導した。
- ミニトマトについては、個別成績表を基にした個別巡回指導や先進農家との情報交換会を実施した。

【成果】

- 令和3年度の2本仕立てUターン誘引栽培の導入戸数は、令和2年度より1戸増えて35戸となった。
- 夏季の遮光対策に23名が取り組み、落花や軟果等の発生が抑えられた。
- ミニトマトの作型や品種の組合せによる出荷時期の調整や病害虫対策など、個々の生産者が前年の課題に取り組み、出荷量は前年より19t増加し214tとなった。

【対象名】

- 青森農協トマト部会(97名)
- 青森農協ミニトマト部会(28名)



トマト栽培講習会



ミニトマト個別巡回指導

3 農山漁村女性の意欲・能力を生かした起業活動の推進

【概要】

現地巡回や聞き取り調査等により、農山漁村女性による起業の活動状況や課題を整理した。

また、課題解決に向けて、事業の活用や個別指導等に取り組み、女性起業の経営力向上を図った。

【背景・課題】

- ・ 地域活性化につながると期待されている女性起業等について、活動を継続していくための経営力向上が課題となっている。
- ・ 新たに起業活動に取り組む組織に対しては、加工技術や知識の習得のほか、マーケティングなど、経営発展に向けた支援が必要となっている。

【普及指導活動の内容】

- ・ 産直組織「浪岡アップル友の会」の高齢化対策として、県事業の活用による集荷システムの実証に取り組んだ。
- ・ 「平内町若手農業者の会」について、町の新たな特産品づくりに向けて、関係機関と連携して地元産枝豆を使った冷凍枝豆の開発に取り組んだ。
- ・ 「企業組合なみおか豆や」については、経理業務の見直しを支援した。
- ・ 外ヶ浜町の2組織に対し、既存商品の販売促進や品揃えの充実を目指し、食品表示や加工技術に関する指導を行った。

【成果】

- ・ 産直組織による集荷システムの確立や商品化を目指した活動体制、加工技術の習得が図られた。
- ・ 外ヶ浜町の2組織は、地域産品を活用した新商品が3品開発でき、売上向上と品揃えの充実につながった。

【対象名】

農山漁村女性、起業組織等、外ヶ浜町農業・農村活性化協議会（あじさいの会18名）、外ヶ浜町上小国いきいき地域づくり検討会（10名）



集荷に係る打合せ
(10/14：青森市)



「あじさいの会」味噌販売
(10/30)

4 地域経営を担う集落営農組織等の法人化と経営改善支援 ～集落営農法人の設立に向けた合意形成と法人化後の経営支援～

【概要】

- 法人化を検討している2つの営農組合役員に対して法人化に向けた合意形成を促した。
- 災害や経営環境等の変化に対応できるように事業継続計画（BCP）の策定を支援し、集落営農法人の経営強化を図った。

【対象名】

- 南後潟営農組合（45戸）
- 西田沢営農組合（60戸）
- 東青管内の集落営農法人（13法人）

【背景・課題】

- 任意の転作組合である南後潟営農組合と西田沢営農組合は、役員の一部が法人化を志向してきたが、組織全体での合意形成には至っていない。
- 法人化後の集落営農組織においても、担い手人財の確保や経営力強化などの共通課題を抱えており、将来の事業継続に不安を抱えている。

【普及指導活動の内容】

- 南後潟営農組合と西田沢営農組合の役員等に法人化の意向を確認しながら、組織内での合意形成と法人化の機運の醸成を図った。
- 集落営農法人の持続的な経営発展のための労災制度加入や万が一に備えたBCPの作成等を誘導した。
- 米価の下落や経営所得安定対策の運用見直しなどに対応するための集落営農相談会を開催した。
- 外ヶ浜町の広域連携法人（株）アグライズ外ヶ浜での生産性向上を目指して、排水対策施工機（カットブレイカー）と大豆選別機の事業導入を支援した。

【成果】

- 南後潟営農組合での水稻生産を含めた法人化については、組織内の合意形成が進展していないことに加え、米価下落などが予想された状況もあって、本年度の法人設立を見送った。また、西田沢営農組合では、転作そば単作での法人設立のメリットが少ないことから、具体的な検討には至らなかった。
- BCP作成や集落営農相談会を通じて、集落営農法人に関わる経営リスクを認識・予測し、事前対応の徹底と早期の復旧・改善に向けた効果的な実践行動の洗い出しができた。
- 集落営農組織が主体となった、戦略的な水田活用の一層の強化が求められていることから、法人設立等への支援を継続する。